

会議議事録

				記録者	仲村 堯之
供 覧	部長	課長	課長補佐	主査・係長	G員
件 名	第5回龍ヶ崎市最上位計画策定審議会				
年月日	令和4年7月12日(火)				
時 間	午前10時～正午				
場 所	龍ヶ崎市役所5階 全員協議会室				
出席者	最上位計画策定審議会委員 鈴木 麻里子 委員, 田中 治彦 委員, 中村 友則 委員, 北川 滋也 委員, 池永 直子 委員, 披田 信一郎 委員, 谷口 佳菜子 委員, 武藤 成一 委員 萩原市長 事務局 木村市長公室長, 岡野企画課長, 小室企画課長補佐, 鈴木副主幹, 記録者				
欠席者	郡司 悦子 委員, 櫻井 惇 委員, 石引 公子 委員, 渡邊 孝 委員 鈴木 麻美委員(代理出席 鈴木 威氏)				
情報公開	<input type="checkbox"/> 公 開	非公開(一部非公開を含む)とする理由		(龍ヶ崎市情報公開条例第 条 号該当)	
	<input type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非公開	公開が可能となる時期 (可能な範囲で記入)			
発言者	内 容				
	開会 市長あいさつ 会長あいさつ 議事録署名人の指名(鈴木会長, 谷口委員, 田中委員)				
鈴木会長	それでは議題に入りたいと思います。「次期最上位計画に関する将来ビジョン及び基本計画(素案)について」です。 事務局から説明お願いいたします。				
事務局	≪資料に基づき説明≫				
鈴木会長	はい, ありがとうございます。 ただいま事務局よりご説明ありましたが, ご質問等につきましては内容を区切りながら進めていきたいと思っています。				

	<p>今ご説明ありました第2章の4基本計画に関するご質問につきましては、後ほど受けたいと思いますので、まず序章、第1章及び第2章の1から3と5そして第3章についてご質問があればお願いいたします。</p> <p>披田委員お願いいたします。</p>
披田委員	<p>最初に、龍ヶ崎みらい創造ビジョン2030というタイトルについてです。</p> <p>これは独立したもので、これでもいいのではないかと思います。ただ基本的には現行の最上位計画である第二次ふるさと龍ヶ崎戦略プランは、第一次とはついておりませんが、ふるさと龍ヶ崎戦略プランの第二次となっていて、市長が変わったためだとは思いますが、以前の総合計画のいい部分も軸にしている計画ということもあって、賛同できるのですが、継続性というか、これまでの最上位計画との継続性はあるということでしょうか。これまでをいったん白紙にして新たなものを作ったわけではないという、継続性と変化について、どのように考えているのかなということがあります。</p> <p>関連してですが、全体として、今回の計画を作るにあたって、第二次龍ヶ崎戦略プランの総括をしたかと思いますが、現行の計画の反省と課題についてどのように盛り込まれるのかが問われる気がします。そういう意味でタイトル自体が新たにこれから始めるという感じになっていないだろうかということが気になります。名前は変えてもいいのですが、戦略プランに代わるものが今度は創造ビジョンであり、何が違って、何が変わらないのかというところをどのように考えているのが気になります。回答といいますか、他の委員の方がどのように感じているのでしょうか。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>では、一点事務局に確認させていただきますが、継続性があるという認識で間違いありませんでしょうか。</p> <p>また、この名称について、他の委員の方から「龍ヶ崎みらい創造ビジョン2030」という名称についていかがでしょうか。戦略プランからの流れがこの名称でわかるかということです。</p> <p>事務局お願いします。</p>
事務局	<p>前プラン、現行プランとの違いということですが、ここ十年間はふるさと龍ヶ崎戦略プラン、その戦略プランの第二次ということで、最上位計画を作ってきたわけですが、ふるさと龍ヶ崎戦略プランについては、地方自治法が変わり、総合計画と言われるものを作らなくていいことになり、そのタイミングでふるさと龍ヶ崎戦略プランを策定しました。総合計画は作らなくなりましたが、龍ヶ崎市としては将来ビジョンを市民の皆さんと共有していくために、やはり同種のものが必要であるという判断で、引き続き作ることにしました。その当時の市長の考えもありまして、これまで通り行政が担う全施策を網羅するような総合計画という作り方ではなく、その中でもどれを中心にやっていくかという戦略的視点を重視したプランにしたという経緯があり、名前もそれにふさわしい「ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」という名前にさせていただいたところです。</p> <p>今回は、時代の流れもあり、人口が減っていく中で、各施策をどう方針付けていくかというところも非常に大事になってくるというのがありましたので、以前で言う総合計画的な、行政の守備範囲を網羅するような計画に作り直すということで、戦略プランという名称から、今回「龍ヶ崎みらい創造ビジョン2030」、2030年に向けての政策、まちづくりの方向性を示すということで作成したところです。もちろん最上位計画というような位置付けが変わるものではありません。また、今後は先ほど説明させていただきましたが、龍ヶ崎市の最上位計画は、「龍ヶ崎みらい創造ビジョン」の後に2040年であれば2040など、</p>

	そういった形でこのネーミングを恒久的に使っていければと考えています。
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>披田委員いかがでしょうか。</p> <p>これを見ると、例えば序章の次、2ページにふるさと龍ヶ崎戦略プランはあるのですが、この中でこれを継続するという趣旨の部分に名称が変わりますという一文があればいいのかなと思いつつ拝聴していました。いかがでしょうか。</p> <p>披田委員お願いいたします。</p>
披田委員	<p>最終的にはタイトルに過ぎないような気もするので、会長がおっしゃったように、そういう趣旨であれば触れたほうがいいのかと思いますが、お任せいたします。</p> <p>全体として、序章の4ページにある図表の2、PDCAサイクルに基づく進行管理というところで、この最上位計画に限らず、さまざまな行政がこのように行っていることになってはいますが、本当にこの最上位計画ができていいのか気になります。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ここでPDCAサイクルを回していくという前提ですので、前回のプランがどのように反映されて新しいプランになっているかというご意見でよろしいでしょうか。</p> <p>その他ございますでしょうか。</p> <p>池永委員お願いします。</p>
池永委員	<p>基本的なことと内容とは全然関係なく、最初にご説明があったのかもしれないのですが、文中にある*印はどのような扱いでしょうか、どこかに脚注など出てくるのでしょうか。</p>
鈴木会長	事務局お願いします。
事務局	<p>*印につきましては、今後掲載する予定の資料編の中で脚注を記載していこうと考えています。</p> <p>策定体制の状況、審議会の開催日程や答申案などの資料を最後に載せる予定ですが、その中に用語集を載せる予定でございまして、その用語集に載せるものということで*印を付けています。この間社会の動きがとても激しいところもあり、*印を付けなければいけないような言葉がたくさん出てきているような状況があります。今までの計画ではページの下部に*印が付いている用語の意味を載せていたのですが、量が多いため、資料編として用語集を載せる予定で調整しています。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。その他いかがでしょうか。</p> <p>披田委員お願いいたします。</p>
披田委員	<p>脚注を後ろにまとめてしまうのは必ずしも賛成できないといいますが、読んでいく中で引っかけり、ページの下部を見て分かるということが大切で、そこは字の大きさを小さくしてでも入れる工夫ができないかということと、それから審議会の開催当初に他の委員の方からも出たと思いますが、カタカナを減らしながらわかるようにすべきだという意見があって、改めてもう一度用語の見直しもした方がいいという気がします。</p> <p>それから、自治体行政DXという言葉が定義や説明がなく当たり前のようにならされておられ、SDGsについても、自然に出てくるのはいいことではあるのですが、本当にみんなが理解しているのか、その扱いも唐突過ぎるようになります。重要なものについてはコラムのようなものを活用して、説明を加えるか、文章の書きぶりを考える方がいいと思います。それ以外のものについては、できるだけ参照しやすいところで記載していただきたい</p>

	<p>と思います。後ろの用語集をめくって読むというのは、少し酷な話なので、もう少し工夫をしてほしいと思います。</p>
鈴木会長	<p>いかがでしょうか。 事務局お願いします。</p>
事務局	<p>今回も脚注を一旦入れてみたところ、頁の半分ぐらいが脚注だけで埋まってしまうという状況もありましたので、今回巻末に添付するというお話させていただきました。また、できる限りカタカナや分かりにくい言葉を使わないように務めてきたのですが、時代の流れが激しいところもあって、やむを得ないところあるのですが、披田委員が言われた通り、コラムといったものもこれから設けていく予定ですので、難しい用語や大事なところは説明するなど工夫していきたいと思います。</p>
鈴木会長	<p>武藤委員お願いします。</p>
武藤委員	<p>今の披田委員のお話の通りだと思っておりまして、基本計画の方でもお話ししようと思ったのですが、80ページのSDGsの推進の内容が少しあっさりし過ぎていると感じます。SDGsの市民の認知度が向上しておりと記載がありますが、これはどういうことをもって認知度の向上を示しているかというのがあります。世界的にSDGsということが叫ばれている中で、当社においてもSDGsの推進計画というのを昨年度策定いたしました。一方、行政においては、当然推進していかなければならない立場でありますので、SDGsの世界的重要性を含めて書いていただければと感じました。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。 その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。 披田委員お願いします。</p>
披田委員	<p>もう1点、人口想定の関係についてです。 この第1章17ページに目標人口について、将来ビジョンの2030年、要するに8年後に7万2,000人になるということ自体は結論としていいのではないかと思います。合計特殊出生率は2020年現在の基準として1.05と極めて低い数値であり、2030年には1.50、2050年には人口が一定となるという2.10を目指しているとなっています。16ページの将来人口展望③の最終行には、2030年には目標人口を7万2,000人としています。2065年には5万957人とあります。2050年と2065年は相当先の話なので、どうでもよくなっている数字であろうと思います。 特に合計特殊出生率については、国のビジョンがある中で、この人口ビジョンもあって、先延ばしにしながらも、その目標自体を諦めるわけにいかないという説明があったものかと思っています。 そうだとすると、やはり全体で書かれている内容からすると、そう簡単に8年後に合計特殊出生率が1.50というところまで上がる訳がなく、それでも頑張りますよという話で、そういう考えの中で今も仕方なくそれぞれの数値を書いているとしても、もう少し整合性なり、あえて記載する以上は28年後に2.10を目指すための施策がどうなのかというところで、簡単には考えられないということを文脈的には言っていると思います。 この点については相当議論を尽くした上で、こういう数字や出し方にしているかと思いますが、もう一度確認をしていただきたいと思います。結論として7万2,000人という目標に向け、当面はそれでやっていくということで良いとは思いますが、この数字の出し方はやはり引っかかるなという感じがします。</p>

鈴木会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>この点は、本審議会でも、かなり議論した点かと思います。ぜひ他の委員の皆様方からご意見いただければと思います。</p> <p>北川委員お願いします。</p>
北川委員	<p>披田委員がおっしゃったように、2065年まで書かなくてはいけないのかなというところですが、今回は2030年までの計画であるというビジョンですから、先まで書かなくてはならないという理屈で書かれていると思うのですが、あえてどうなるか分からないようなところまで示す必要はあるのかなと思います。</p> <p>人口ビジョンの基になるような統計は探せば出てくるので、興味のある人は探してもらえばよいのかなと思います。</p> <p>今は2030年までのお話をしているのであって、遠い未来に人口が減りますよという話はあえてしなくてもいいような気がします。以上です。</p>
鈴木会長	<p>いかがでしょうか。</p> <p>あえて示す必要があるのかどうかということです。</p> <p>中村委員、お願いします。</p>
中村委員	<p>私も2.1という数値を掲げ、わざわざ書く必要はないのではないかと過去に言わせていただいていたと思いますが、ここでもやはり残してきたのだなと見ていました。</p> <p>7万2,000人という数字自体は目標として目指していくという話でしたが、そこに合計特殊出生率をわざわざ書く必要はないのかなと思います。先ほど披田委員もおっしゃったように16ページ③番に現実的ではないと書いているのであれば、ここに数字をわざわざ出すことについてはどうなのかなと思います。おそらく前回と同じような話になりますが、それでも記載してあるのかというふうに読んでいます。ですから、どうしても残したい、残さざるを得ない理由があればお聞きしたいと思っています。</p>
鈴木会長	事務局お願いいたします。
事務局	<p>人口推計の表現の仕方は非常に難しいところもあるのですが、我々としては、2065年まで示しているというところについては、今後、やはり人口は減っていき、今のペースでいけば、2065年にこれだけ人口が減っていきますというのを市民の皆さんにも分かってもらった上で、今後の将来の施策を市として考えていきたいというところでもあります。</p> <p>2030年だけ示せばということもあるのですが、現実的に日本の人口が減っていく中で、龍ヶ崎市もちろん減っていくことになっていきますので、今回は2030年までの計画になっておりますが、将来的な数字を示した上で、その後のことも一緒に考えていければということもあり、2065年までの記載とさせていただいております。</p> <p>合計特殊出生率の考え方につきましては、これはやはり龍ヶ崎市だけの問題ではなく、国全体として人口を維持していくためにどうしたらいいかというようなことで示されている内容でもありますので、その辺も含めて数字を示して、目標とする合計特殊出生率についても理解していただいた上で、市としての施策を示し、それに近づけるための施策をこのように考えていますというのを示していくということで、将来的な数値、合計特殊出生率の細かな目標について書かせていただいているところです。</p>
鈴木会長	披田委員お願いします。
披田委員	16ページの推計自体は将来的にこれだけ減りますということでよいと思いますが、17ページについては7万2,000人とあるように具体的な数値を出して、この目標に向か

	<p>ってどうしていくのかということ、また 2050 年に人口が一定となる 2.10 を目指すとなっています。これを 2065 年にまで先延ばしにすると国に怒られるのでしょうか。2.10 という次の段階を書かないで済むのが一番いいのですが、1.8 と 2.10 をどこかに書かなければならないというのが人口ビジョンであるとすれば、2050 年までには目標にしなくてはいけないとなっているからこうした表記をしているのでしょうか。</p> <p>ここをもっと先の目標とするとか、目標を書かないといったことにできないというのが今のポイントだと思います。</p>
鈴木会長	事務局お願いします。
事務局	<p>国で合計特殊出生率の目標の考え方は見通しとして示されておりまして、何回も繰り返しの話になりますが、2030 年に 1.8、2040 年に 2.07 という数字が示されており、これまでの話の中で、龍ヶ崎市では県よりも合計特殊出生率が低いことを踏まえて、目標とする年をずらしているという説明をさせていただきましたが、2050 年までにその目標を人口置換水準にまでに持っていかなければならないと具体的に書かれているものではございません。ただ、国全体の目標として掲げている数値というところもありますので、龍ヶ崎市では現状を踏まえて国や県の示している通り進めるのは難しく、何年か遅れてしましますが、そこを目指していくというような姿勢を示しているということであり、どうしてもそこまでにというような話ではありません。</p>
鈴木会長	<p>いかがでしょうか。</p> <p>谷口委員お願いいたします。</p>
谷口委員	<p>私も前にお話伺ったときに、先のことを書きすぎている印象を受けていました。特に必ずしも書かなければいけないというわけではないということであれば、2030 年に目指す目標値を出すのがいいのではないかと感じています。具体的に数値を目指すための施策が、後のみらい創造プロジェクト等でできていきますというのであれば、ここで目標を設定することはいいと思いますが、そこがまだ 2030 年にできるかどうかということでもありますので、2050 年の目標を出してしまうのはどうなのかという気はしています。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>田中委員お願いします。</p>
田中委員	<p>何年まで示すかということ以上に、目標人口を設定することは非常に大事だと思いますし、これでいいと思います。</p> <p>これにもありますように、出生数の増加と定住促進、転出抑制という 三つの要因があるわけなので、この目標を達成するための優先順位といたしますか、出生率の増加を目指します、しかしできなかった場合には、転入ですとなり、転入も日本人だけではなく外国人もいますというような 3段階くらいで位置付けておかなければいけません。目標人口をどのように達成するかというその戦略をしっかりとしておく必要があると思います。</p> <p>それと関連して、外国人施策や若者の参加、或いは常磐線を含めた転入・転出のための施策等が関連してくるということ認識することは必要かと思えます。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>その他いかがでしょうか。</p> <p>皆様のご意見を伺っておりまして、目標人口、合計特殊出生率と転入・転出のコントロールが合わさってこの目標人口になっているので、どうしても合計特殊出生率の数字が</p>

	<p>特異に見えてしまうということなのかなと聞いておりました。 事務局お願いします。</p>
事務局	<p>その部分ですが、17 ページの下から 2 段目の段落になります。 この部分に記載されている内容がないと、推計にあたっての考え方などがわからなくなってしまうところもありますので、今のご意見を踏まえまして、書き方、表現の仕方を工夫させていただければと思います。</p>
鈴木会長	<p>ただ、この 2030 年度に 7 万 2,000 人という数値を出すにあたり、将来的にもっと先の人口推計を見ていくと、今現在目指すべき 2030 年度はここだというその裏付けとして、この 2050 年を出しているというふうに私は解釈して読んでいたのですが、それによって逆に混乱を招くということであれば表現の工夫は必要かなと判断しているところです。</p> <p>では、時間も押してきていますので、ここから第 2 章の 4、基本計画について進めていきたいと思います。基本施策ですのでこちらをまずは少し分けていきます。</p> <p>まず政策の柱 1、「子供が健やかに育ち、一人ひとりの夢や希望を育むまちづくり」、それから政策の柱 2「まちの元気を生み出す産業と交流のあるまちづくり」について、質問をお願いいたします。</p> <p>北川委員お願いします。</p>
北川委員	<p>ひとつだけ確認したいのですが、3つのリーディングプロジェクトについて、これはどういう方がメンバーとなって進めるものなののでしょうか。これは市役所の職員がメンバーということで考えてよいのか。プロジェクトというのは、構成メンバーと計画があって目標に向かって動かしていくというイメージを持っています。市役所の中だけで、職員がそのプロジェクトに参画しているということなののでしょうか。単に言葉だけなのかをお聞きしたいです。場合によっては市役所以外にも何かそのような組織を作って回していくのか、そのあたりが少し分かりませんので、ご確認させていただきます。</p>
鈴木会長	<p>事務局をお願いいたします。</p>
事務局	<p>プロジェクトという用語の使い方ですが、いわゆる優先して行う取組という意味合いで使っています。組織体制としてのプロジェクトという意味でこの用語として使っているものではありません。優先的に取り組む施策というところでリーディングプロジェクトという使い方をしています。</p>
鈴木会長	<p>北川委員よろしいですか。</p>
北川委員	<p>はい、わかりました。 メンバーが決まっていることを期待したのですが、そういうことではないということですね。</p> <p>続いて子育てについてですが、よろしいでしょうか。</p> <p>子育て環境についてずっと取り組んでいますが、やはりこども家庭課だけの問題ではなく、全庁的な政策・パッケージとするような取組、また外部の力も必要な時期に来ているのではないかなと思います。</p> <p>例えば家庭内の夫と妻との家事・育児の分担については、国もかなり力を入れるようになってきていて、男性育休の推進のような具体的な施策も出てきています。そういうことを具体的にはめ込んだ上で総合的に考えていかななくてはいけないような気がします。</p> <p>例えば、男性育休の推進であれば市役所の職員が必ず育休を取るとか、市内の事業者に対しても推進するといったことです。</p>

	<p>総務省から妻と夫の家事負担の比率について調査結果が出ています。5対5の割合というものは5.3%のようですが、一番多いのが、夫が1妻が9というのが31.6%、夫が2妻が8というものは24%といった結果が出ています。そういった中で、国の施策の部分のひとつ目標にして、今後その指標を市民アンケート等で追いかけていくことによって少しは推進が進むのかなと思います。</p> <p>次にもう1点、生きる力の教育についてです。</p> <p>2020年の学習指導要領の改訂について、おそらく戦後最も大きな改訂だと言われていますが、社会に開かれた教育課程や、育成を目指す指数の明確化といったことが示されています。またカリキュラムマネジメントであるとか、主体的・対話的な学びの事業の実現といったことも書かれています。</p> <p>これは今まで一方的に知識を教えていたやり方から、子供たちが一人一人考えて、いわゆる教えない教育に変わるというのは大きな転換で、学校は一生懸命取り組んでおられると思います。この要素にあるICT教育というのは一つのツールであり、それを使ってもっと推進しようという流れになっています。一方で、計画の中では生きる力にしか入ってないのですが、これは教育委員会の方で揉んだ結果でしょうか。</p> <p>もう少しそういった表現について、新たな教育変革の時代に対応していくというようなところがあまり明確に見えてこないような気がしたので、意見として述べさせていただきます。以上です。</p>
鈴木会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>それでは、委員の皆様からぜひご意見をいただきたいと思います。</p> <p>まずは柱の1の方で、育休制度の創出といった内容についていかがでしょうか。</p>
中村委員	<p>私は男性側ですので非常に申し訳ない発言になるかとは思っています。</p> <p>正直、各家庭の事情も大きく影響すると思っていて、どこまで男性側が手伝えれば、イーブンなのかというところは、外から与えられるものが大きいのではないのではないかと思います。</p> <p>例えば育休を取得したから、育児を手伝ったかという、ただ休んだだけですよというようなことも多いかと思しますので、あまり指標として計れるものではないかと思っています。どのようなニーズがあるのかという掘り起こしができてないと感じています。</p> <p>実際に家事手伝いをやって欲しいという市民からの声があって、これを掲げているのかどうかということが気になります。それがあまり見えてこないかなと思いますので、その部分にあまりフォーカスを当てなくてもよいのではないかと思います。</p>
鈴木会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>北川委員お願いします。</p>
北川委員	<p>つい最近、男女共同参画白書というのが出まして、今なぜこういう事態になったのかというのは、全部表現されているような気がします。</p> <p>国がなぜ男性育休とわざわざ言っているのか、私も最初疑問を持ちましたが、それを考えて突き詰めていくと、人間というのは共同養育の動物なのに、1人に子育ての負担が偏っていました。最近は変わってきていますが。</p> <p>国では男性育休を推進しているのに、企業の方はまだ認めていないとか、そういった状況も今は過渡期であるからかと思えます。</p> <p>その中で、今後子育てを推進するのであれば、そういった一つのトリガー的な政策を入れて進めるということが必要なのではないかという意見です。</p>

鈴木会長	事務局お願いします。
事務局	<p>今、北川委員もおっしゃられたところですが、これは施策の展開方向の⑤で少子化対策の強化と書いてあり、ここで少し幅広に見るイメージで書かせていただきました。先ほど、男女共同参画の白書なども参考にしながら、やはり経済的な問題や、子供を育てる担い手といった問題があります。</p> <p>先程申し上げた、男性女性問わず、誰が子供を育てるのかという話ですが、ワークライフバランスなども大きく影響してきますので、その辺のイメージをここで広く見ていくということです。この点は当初想定しておらず、新たに追加をした部分でして、子育て支援という部分しかこの章の施策にはなかったのですが、追加で全般的な少子化対策の強化ということを入れています。</p> <p>そういった意味で、先程の男性育休の取得の推進であるとか、例えば民間企業への促しであるとか、男性育休の取得については市として取り組んでいることを波及させていくことであるとか、そういったものも含めて⑤で見ていく形になります。要するに、子育て支援自体が直接的に少子化対策に影響を与えないというのはこの前の白書でも読み取れると思いますが、実際何が影響していくのかということ、それから、結婚という部分が今回出てくるのですが、子どもを育てる体制の強化というところの意識啓発について、これまでもやってきていますけれど、重点的に取り組みますということで少し強めに押し出しています。</p> <p>具体的な施策は前回説明したと思いますが、この後それぞれの年次計画を立てていく中でそれぞれの所管が具体的な取り組みを立てていくということになっております。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>北川委員。そちらで少子化対策について示しているということによろしいでしょうか。</p>
北川委員	<p>はい。</p> <p>もう少し強く表現していただければと思いますが、分かりました。</p>
鈴木会長	武藤委員お願いします。
武藤委員	<p>議論が戻ってしまうようで申し訳ないのですが、先ほど冒頭の北川委員の話でネーミングの部分で誰がやるのかという話がありましたけれども、全体的な書きぶりとして、実際に誰がやるのかといいますか、この部分でも実施したいというか、民間などと連携したいということを書かなくていいのでしょうか。先ほどの話では個別の計画で具体的に示せるという話をお聞きしたような気がしますので、その通りであれば結構ですがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>はい、民間との連携は当然、これに限らずすべての施策においてやっていくべき話でありますので、先ほど申し上げたような、例えば男性育休取得の推進については、企業さんに意識していただき、市全体でやりましょうという話になることがすべてだと思いますので、当然それぞれの所管がそのような促しについて取り組んでいきますというのを具体的にやっていくようになるかと思えます。</p> <p>今回の計画の作成の意図として、意図的に具体的な取組を明示せず、そういう意味で幅広に取れるような形をこの計画の中で定めておくというのが、全体的なスタイルになっています。</p>
鈴木会長	はい、田中委員お願いします。
田中委員	別の観点になりますが、36 ページの若者世代の活躍ということで、項目を入れられた

	<p>のがすごく良いと思ひまして、これが龍ヶ崎の将来的な活力に繋がると思ひます。これを強調していただくというのはすごく良いと思ひます。</p> <p>成人式についても書いてありますが、この成人式という名称をきっちり残すといいですか、行政がやるからには成人の自覚を促す式典が大事で、事業計画にありましたが、これを「20歳を祝う会」に変えようというのは、七五三と同じになってしまいますのであまり意味がないと思ひます。</p> <p>それから質問ですが、42ページの冒頭で施策を目指す龍ヶ崎の姿のイメージ、観光まちづくりのところで、2番目に「龍ヶ崎と言えばこれ」という意識は市民に生まれていきます」とありますが、文章の意味がよく分かりません。</p>
鈴木会長	事務局からお願いいたします。
事務局	<p>「龍ヶ崎はこういうものがありますよね」とか、「これがおいしい」とか、「こういう場所がいい」だとか、「こういうのは魅力だ」というのをそれぞれ市民が思っていくということをこの表現にまとめています。</p> <p>何かよい言い回しがあれば、提案していただければと思うのですが、例えば遠方で龍ヶ崎出身ですという話をして、「龍ヶ崎はどういうまちですか」と聞かれた時に、市民がこれだと言えるような意識をそれぞれが持つというイメージで書かせていただいているところです。</p>
鈴木会長	<p>この点は引き続き要検討というところでしょうか。表現の見直しも含めてご検討いただければと思ひます。</p> <p>先ほどの北川委員から、学習指導要領に関連してという意見がございました。こちらについていかがでしょうか。</p> <p>中村委員お願いします。</p>
中村委員	<p>このICT教育の推進というものを大きく書かれているのですが、ICT機器はそれこそノートや鉛筆などと同じ分類だと思ひています。ICT教育というとノート・鉛筆の使い方を一生懸命教えますというように読めてしまうかと思ひます。</p> <p>それを使って何をやるのかというところが重要だと思ひますので、この機器を使った教育が独自にできますよというところわかりやすく表現された方がいいかなと思ひます。北川委員のおっしゃる通り、これは機械なので、機械を使ってどうするのかということが書かれていないと感じています。</p>
鈴木会長	披田委員お願いします。
披田委員	<p>小中一貫教育について意見があります。</p> <p>たつのこ人づくり学習で勉強を9年間見通したということが書かれていますが、施設一体型小中一貫教育に踏み込んでいて、義務教育学校という学年制度と併用するのか、個別に学校地域の状況によって使い分けるのかわからないのですが、そういうふうになっているのでしょうか。</p> <p>教育プランでも同じように書くはずですが、そのことに直接触れていないように見えます。教育プランと最上位計画に記載される内容や整合性が少し気かりに感じます。またカリキュラムやその中身に全然触れていないようですが、それでよいのかとも思ひます。</p> <p>もう1点、ICT教育の現状と課題について、ICT教育はじめ英語教育、プログラミング教育など特色ある教育活動の展開が求められていますとあります。これについては、もうすべてやることになっていて、どのぐらい力を入れるかということかと思ひます。以前は、英語教育について県南では守谷市等で相当費用や人もかけているという話がありま</p>

	<p>した。</p> <p>龍ヶ崎市としてこのカリキュラム改編でやることになっているものを並べただけで、特色についてはこれから考えますという主旨かと思うのですが、具体的に示されているものがないところも気掛かりです。特に、小中一貫の関係について、適正規模、適正配置の取組という見方をしていますが、私は教育内容的にも踏み込んでいると理解しているのですが、その点について教育委員会との調整はどうなっているのでしょうか。</p>
鈴木会長	事務局お願いいたします。
事務局	<p>こちらの教育に関係する施策につきましては、教育委員会と協議を行いながらまとめてきたところですので。</p> <p>小中一貫校の話につきましては、ここでは考え方を示して具体の取組についてはアクションプラン、いわゆる実施計画で示していくというような考えでありますので、あえてここでははっきりと小中一貫校云々という話は触れてはないのですが、これを実現するための施策として、アクションプランの中で具体の取組として位置付けていくということで考えています。</p> <p>現状、課題のICTとかプログラミングといったところについては全国的に取り組んでいる内容ですので、今後いかに特徴を出していくかというのは非常に大きな課題になっているかと思えます。それに関しては、リーディングプロジェクトの一つ、みらい創造プロジェクトの3点目として入れさせていただいておりますので、重点的、積極的に取り組んでいければということで考えています。</p>
鈴木会長	披田委員お願いします。
披田委員	<p>とりあえず説明としては理解いたしました。ただその点についてはもう少し触れるようにしていただきたいです。</p> <p>例えば、北川委員が色を積極的に出したらどうかと、いくつかおっしゃられているようなことは、全体として今までやってきたことで、何もしてないわけではないと思いますが、その辺りの書きぶりが弱いのではないかという気がします。</p> <p>また、重要業績成果指標というものがすべてについていますが、これはどのように設定したのでしょうか。そもそもこの選び方が適切でないし、このぐらしか出しようがないからこの段階で入れているということではあると理解はしていますが、これでよいのですかという質問です。</p> <p>ベース値は実績になるので、小数点以下の数字でわかりますが、目標値で同じように小数点をつけたものがあります。この数字を出すための数式など、メカニズムがあるなら教えてください。すべてについて数値を計算してみたのですが、その合理的な根拠や考え方がよくわかりません。</p> <p>これに対して、15年程度前の総合計画策定の際、特に満足値のアンケートで出るようなものについてはやりようがないですから、プラス5%とかプラス10%というものが多くありました。単純に整数値を乗せてこのくらい頑張りましょうということで作っていた時代がありました。</p> <p>今回は、この小数点以下の細かい数値がひとつずつ微妙に違っているのですが、どこから出てきた数値かがよくわかりません。またこの成果指標は全体で120項目あるのでしょうか。ほとんどが満足度になっていると思います。市民アンケートをやった際に、NPSという新たな指標が7~8項目出てきましたが、これも少し分かりにくいと感じました。</p> <p>それ以外に、実際の成果でいうと、全部ではありませんが61ページに防災減災のところの住宅の耐震化率は、市独自調査で95.9というベースがあり、98.0を目指すといった</p>

	<p>ような、高い数値を示すものがいくつかある一方で、数%足したり、項目によっては10%足したりというように、成果指標の出し方が良く分かりません。なにをやろうとしていて、何でチェックしようとするのかわからない。という印象ですが、いかがですか。</p>
鈴木会長	事務局お願いいたします
事務局	<p>成果指標の考え方について、まずなぜこの指標を置いているかということですが、基本的にいわゆる成果指標と言われるものを置いています。何かをやったから参加者は何人だった、というような指標は基本的に置かないという前提があります。</p> <p>アウトカム指標として、何か活動を行った成果としてどういう結果がもたらされたかという視点を基本的にこの成果指標には置いています。そうでない指標も一部ありますが、その点はやむを得ないところがありまして、指標がなくなってしまうのを避けるためです。</p> <p>そのため、市として持っている情報、つまり市民アンケート結果を活用しているため、指標のほとんどが満足度になっているというところ です。</p> <p>また、活動指標は取らないのかという話ですが、そちらについては、アクションプランで具体的な施策を落としていく中で、それぞれ数個程度の成果を図れる指標を置いて、毎年成果を図っていくということを別途やろうと考えておりますので、最上位計画ではそういう活動指標については、置いていかないという前提で考えています。</p> <p>もう一点、目標値の設定の考え方ですが、こちらは基本的にはベース値の項目について過去3回の市民アンケートの結果を見ながら、実際にその経過の中でどれくらいの上昇減少があったのかというところを踏まえて、それぞれの上昇率をそれぞれの指標に立てて、目標値を設定しているという考えがあります。</p> <p>ただ、ベース値から下がってしまっている指標というものの中にはありましたが、これも新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に下がってしまっていて、それを踏まえてベース値を設定したものもあります。そちらについては、過去のアンケートの中で一番高かった数値を中心に目標値を設定するというところで基本的には設定させていただいています。</p>
鈴木会長	鈴木委員（代理）、お願いします。
鈴木委員 （代理）	<p>今の成果指標というお話で感じた点を申し上げたいと思います。</p> <p>一般的な話としては、おそらく成果指標としては具体的で客観的で測定可能なものが適当ではないかなというように思われます。</p> <p>こちらの計画で書かれている「市民アンケートで満足している市民の割合」などを指標にしますと、どうしても主観的な回答になりますので、ある施策を的確に実施したとしても、それをどう市民が感じるかというのはまちまちですので、必ずしも市が取り組んだ施策の結果がアンケートの数値に反映されない、うまく整合してこないという恐れもあるかと思えます。</p> <p>そのため、アンケートによる満足度などがかなり多いということはほとんどそういう形になっているのかなというところが気になりました。</p>
鈴木会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>いかがでしょうか。</p> <p>ここまで作成していただいている、満足度ではない主観によらない客観的データに置き換えるということは可能でしょうか。</p> <p>事務局お願いします。</p>
事務局	成果指標については、やはり活動指標ではなくて、成果指標としてアウトカム指標をす

	<p>べて使いたいということで考え方を統一させていただいて、こういうような指標にしているのですが、把握しやすく、また定点で比較できるとなると、アンケート指標が主なものになってくるのかと思っています。</p> <p>今のご指摘については、わかりやすさや客観性ということもありますので、成果指標は、案として今回お出ししておりますが、もう少し精査も必要かなと思っておりますし、あとは出典もはっきりさせておくということと、目標値をどのように設定しているかというのをあらかじめ明記していく必要があると思いますので、そのような表を作る中で精査していければという考えでおります。ご意見ありがとうございます。</p>
鈴木会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>時間が差し迫ってきていますので、3・4・5・6まで次に進めさせていただきます。</p> <p>田中委員お願いいたします。</p>
田中委員	<p>68 ページの移動環境について、JR常磐線についての記載がありますが、龍ヶ崎にとって常磐線は生命線であって、主に通勤通学において利用されていますが、利便性が低下しているという状況があります。</p> <p>この3月のダイヤ改正で快速がなくなったり減便したり、15両編成が10両になったり、コロナ禍でJRも大変なのは分かりますが、これまで龍ヶ崎市駅という駅名の変更等、努力しているかと思えます。常磐線の利便性の向上に対して現在されていることとか、定期的に要望することができるような仕組みがあるのでしょうか。</p> <p>これは転入増加・転出抑制の観点からもすごく大切だと思います。</p>
鈴木会長	事務局お願いいたします。
事務局	<p>JRの利便性向上ということですが、コロナ禍以前はJR水戸支社に市長以下担当がお伺いして、市民の皆さんから寄せられる利便性向上の項目について、例えば特急の停車回数増加や、朝・早朝の時間帯の充実とか、要望をはじめ意見交換を行っていました。</p> <p>通常に戻ればそのような取組も、継続して復活するかと思っています。意見交換は定期的に行っていたという実績はございます。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>池永委員お願いいたします。</p>
池永委員	<p>69 ページの4番、65歳以上の高齢者の運転免許自主返納というところですが、今までの話を聞いているとあまり具体的なことは言わず、広く対策ができるようにという話だったのですが、ここだけ65歳以上というのがしっかり書いてあります。</p> <p>また、65歳以上の方はコミュニティバスのおたっしゅバスが買えると思うのですが、コミュニティバスと関東鉄道路線バスと一緒に使えるバスは70歳以上からしか使えないようになっていたと思います。</p> <p>そこで、その5年間を埋めるようなバスの優遇はないのではないのでしょうか。</p>
鈴木会長	事実確認としてこの優遇の対象年齢をご存知の方がいればお願いいたします。
事務局	<p>以前、公共交通を担当したときに、コミュニティバスと路線バスの両方を使える定期券の対象を65歳に引き下げられないか、市のおたっしゅバスと合わせて一緒にできないかという議論はありました。</p> <p>ただ、65歳だとまだまだ現役で働いている方が結構いらっしゃいますので、これをもし65歳に下げた時にかなり事業者としては厳しいということがありましたので、差が生じているという状況です。</p>

鈴木会長	池永委員お願いします。
池永委員	<p>それでしたらここだけ 65 歳以上と細かく明示される必要はないのかなという気もします。高齢者の運転免許自主返納という形でお進めになってはいかがでしょうか。</p> <p>ただ、65 歳以上の方が運転免除を自主返納すれば 1 年間のコミュニティバスのパスはいただけるかと思います。無料で 1 年使った後はどうするのかという話にもなってくるかと思いますので、ここだけ細かく年齢を書かなくてもいいのかなという気はしています。</p>
鈴木会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>北川委員お願いします。</p>
北川委員	<p>企業の誘致をするというような項目があったのですが、積極的にこういう企業に来てもらいたいというオファーを是非していただきたいなと思います。</p> <p>若者が定着しないのはここに魅力ある活躍の場がないからということではないかなと思います。</p> <p>魅力ある働き場所であるとか、活躍の場があればほぼ解消されるのではないかと、それを考えるとそういった企業誘致にしても、市からこういう企業に来てほしいといった方針を少し打ち出せないかという意見です。</p>
鈴木会長	事務局お願いします。
事務局	<p>企業誘致については、企業のニーズや立地動向の把握など、企業と市とのやりとりの中で、市としての思いと企業としての思いをすり合わせて誘致を進めていくというような考え方になるかと思います。</p> <p>また、図示はされておきませんが、文書の中で市街化区域の縁辺部分であるとか、そういったところの活用、要するに県道とか大きな道沿いの際、ロードサイドの利活用などを進められるかというところがありますので、そういうところも含めて誘致は図っていくということの一つの大きな軸として考えているところです。</p> <p>子育ての出生率向上のところとも深く関わる部分で、白書などを見ても、仕事の間があるということは、定住に繋がる一つの大きな軸になるということは理解をしておりますので、そのあたりはこうしたところで見たいこうと考えています。</p>
鈴木会長	<p>はい。</p> <p>北川委員お願いします。</p>
北川委員	<p>こういった企業に来てもらいたいと誘致をして、人口流入につながったというある自治体の記事が新聞の中で目につくのですが、やはり市町村としての意思、こういうまちづくりをしたいからこういう企業に来てもらいたいという考えが大事かと思います。それが若者の魅力ある働き場所と活躍の場に繋がると思いますので、もう少し強く意思を出しているのではないかという気がします。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>武藤委員お願いします。</p>
武藤委員	<p>68 ページ 69 ページにわたってですが、公共交通について細かく丁寧に書いていただいております。</p> <p>一方で、トレンドではなくなってしまったのかもしれませんが、龍ヶ崎市さんにもご協力いただいている、MaaS 推進事業というものをやっております。</p> <p>龍ヶ崎は鉄道、バス、タクシーといった色々な交通網があつて、それらを様々な観点で</p>

	<p>結び付けられるということで昨年から取り組んできておりますが、ぜひその事業を推進するという意味で、どこかに書いていただければ非常にありがたいと思っております。</p>
鈴木会長	<p>よろしいですか。 では事務局お願いします</p>
事務局	<p>同じく 69 ページの AI オンデマンド交通などというところで、MaaS を含め、交通分野における新たな技術や交通手段の導入に関することを見ていくのですが、実際市として取り組んでいる部分でありますので、見えるようにしておくということができるかと思えます。</p>
鈴木会長	<p>読み手にとってマースと AI オンデマンドどちらがわかりやすいのかというところがありますが、表現についてはご検討よろしくお願いいたします。 続いて政策の柱 7 と 8 の方に移りたいと思います。 披田委員お願いいたします。</p>
披田委員	<p>横断的な取組ということで個別に柱を立てたということについては賛同したいと思います。従来は、計画の最後の方に行政課題などをまとめて書いてありますという程度だったものを、引き出しながらまとめたというのは市の意思だろうと理解しています。特に、第 3 章で財政についても、別に書いていることも含めて、ここの構成の仕方について賛同します。</p> <p>ただ、もう少し財政に関する書きぶりを改められないかということ審議会の早い段階でご指摘したのですが、この最上位計画自体は、地方自治法ではなく、龍ヶ崎市のまちづくり基本条例を根拠に書いています。そういう意味で龍ヶ崎の憲法と言うべきまちづくり基本条例を資料編の中などで据えてほしいということを改めてお願いしたいと思えます。色々な基本計画がこの計画を根拠にしてやっているという意味で、全国でも数少ない防災基本計画などがあるのですから。</p> <p>第 3 章それから第 8 編との関係で言えば、財政の基本計画が少し抽象的でわかりにくいところもありますけれども、そういう計画を立てて、計画的にチェックしているということを示すためにも基本条例と合わせて、資料に入れることによって、裏打ちができるという気はしています。</p> <p>もうひとつ、確か前期戦略プランの中では、龍ヶ崎行政改革大綱を従来作って合体させたというようになっていたかと思えます。それを踏襲しているから行政改革という言葉が謳っているのかと思えますが、そういう意味でこの第 7 のところが出ているというのは評価もできるということです。</p> <p>その上で少し言わせていただくと、効率的で透明性の高い市政運営というところで情報公開について触れていますが、例えば情報公開については、前々市長の時代でしたけれども、条例だけではなく、情報公開指針を持ってそれなりに努力をされていて、ここの書きぶり中ではもっと市民も、自分から情報を得るように、勉強しろと逆に行政から怒られているということがありました。この計画の書き方が悪いというわけではなく、双方に関する記載は増えてはいるのですが、そういった点は改めて見直していただけるといいなと思えます。丁寧にわかりやすくしていただけるとよりメリハリがつくかなと意見として言わせていただきます。</p> <p>少し前に戻りますが、先ほどの成果指標の点について少しうやむやなところもあるのですが、やはり根拠というか過去の何回かの数値を見ながら、コロナ禍の影響も考慮したということで、細かな数字が出てきたということかと思えます。この成果指標は、以前は五つぐらい項目があったかと思えます。今回そこまで項目を増やせとは言いませんが、この</p>

	<p>根拠がよく分からないので、少し手間かもしれませんが、過去の資料があって、そこからこういう数値を引っ張り出したということであるならば、それは参考資料として別にいただきたいと思います。</p> <p>満足度だけで本当にいいのかというものがありますが、満足度でしか測れないものもあるとは思いますが。ただやはりそれ以外の取れるものを見つける努力はしていきたいと思えます。隣の河内町の第5次総合計画を見てみたのですが、例えば不便なりに便利なまちにしないでいけないという河内町の課題があって、現状のK P Iは住み続けたい町民比率34%、10年後のK P I目標は80%以上、それからよそにない教育の町にしたいということがあり、現状は専門学校と新たな学校入学者は0名ですが、10年後のK P Iは新たな入学者200名としています。それから、米で世界を驚かすという河内なりの目標があって、米のゲル化利用というのを考えてるらしいです。食べ物そのものではなく、これについて現状出荷額0円のところ、10年後の出荷額30億円としています。</p> <p>これはストレート過ぎますが、やはり客観的な数値に向けて努力するというのは、龍ヶ崎の場合は今ある中でいえば耐震率が95.9から98%というぐらいしか見つけられませんでした。少し寂しいし、わかりにくい成果指標な気がしますので、ぜひご検討を再度お願いいたします。以上です。</p>
鈴木会長	今のご意見について、北川委員お願いします。
北川委員	<p>私も披田委員のおっしゃるようなところは本当に気になっていまして、例えば教育のところだと、学力テストという経年的なデータを持っていると思えます。</p> <p>ですから、具体的にそういった客観的なデータが取れるものはぜひ、採用して載せていくべきではないかなと思えます。</p>
鈴木会長	事務局お願いします。
事務局	<p>繰り返になってしまうのですが、基本的には今回の計画は具体的な取組はあまり載せないという前提で書いているというのがあります。</p> <p>耐震化率については、他に指標がなくて記載したのですが、全体として把握できるような指標を基本的に位置付けています。そのため満足度が中心になっているのですが、具体的な指標をどう取るのかというのは逆に先ほど申し上げました通り、それぞれの個別の事業について、計画を作って進捗管理を進めていく中で、それぞれ毎年当初の段階で、その事業に対してそれぞれの成果、指標を年次計画の中で定めて、進行管理していくというような取組で事業評価をしていきたいと思っています。その事業の評価をベースにしながら、最上位計画の中に載っている、いわゆる満足度というのも、進捗管理としては行っていった、その両方を合わせて全体の取組の評価をしていきたいというふうに考えています。</p> <p>なぜそうしたかといいますと、仮に事業を途中でやらなくなってしまったり、感染症の拡大といった状況で事業展開ができなくなってしまったりしたときに、最上位計画に記載してしまうことで、なかなかそのK P I自体を見直せなくなってしまうというのが前回の計画策定時の反省としてあったものですから、細かな事業に関しての成果は、できるだけ流動的に対応していきたいという意図があって、あえてこの最上位計画に載せずに個別計画にそれぞれ載せていくというようなイメージで考えていたところです。指標の数としては今まで以上に量が増えるというような見通しで、成果指標については考えているということです。</p>
鈴木会長	事務局お願いします。

事務局	<p>補足になりますが、それぞれの事業の評価については、主要施策の成果報告書というところで、数値目標を定めて、別々に評価していきたいという考えでおりまして、実際に毎年施策評価、事業評価とやっていくのですが、その段階ではこちらに載っているK P Iの推移とともに、それぞれの事業ごとに設定してあるK P Iの成果も、一緒にご覧いただくことできるかと思っておりますので、ここにアウトカム指標を中心に載せてありますので、これから精査する中で追加していこうと思っておりますが、個々の事業評価については、主要施策の成果報告の中でそれぞれ設定して、この施策評価の結果とともに、その数値の推移とかを示していきたいと思っております。</p>
鈴木会長	<p>はい、ありがとうございます。 谷口委員お願いします。</p>
谷口委員	<p>序章で龍ヶ崎みらい創造ビジョン 2030 と出てきたと思うのですが、リーディングプロジェクトが三つ挙げられていて、魅力創造プロジェクトはこのままで何となくわかるのですが、みらい創造プロジェクトと少し重なってしまうので、違う方がいいのかなという気がするのと、もしこのみらい創造プロジェクトというのが最重要プロジェクトであるということを示しているのであれば、そのようなご説明が欲しいと感じています。</p> <p>幸せ創造プロジェクトについては、31 ページの中身を見ますと、健康寿命の延伸というものもあれば移動ニーズであったり、アクセスも含まれているので、この幸せ創造という言葉が合っているのかどうかというのが気になりました。以上です。</p>
鈴木会長	<p>いかがでしょう。ご意見ございますか。 事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>書きぶりについては検討させていただければと思います。</p> <p>みらい創造に関しては、三つのリーディングプロジェクトは全て大切ですが、最も大事なものと言われればやはりここになると思います。</p> <p>やはり子育て支援、出生率の向上、若い世代がどう定着するかを考えても、人口が維持できなかったらどうにもならないもので、最重点であることには間違いのないと考えております。</p> <p>幸せ創造については、そういう意味では幅広の話になっているのですが、市民の幸せは色々な施策で捉えられるかと思っておりますので、快適に暮らせる、住み続けられる、住みたいまちというのは、先ほどのリーディングプロジェクトのありたい姿の中にありますので、そこを踏まえて幸せという表現をしてありますので、その点も含めて検討させていただきます。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。 それでは時間も超過してしまいましたので、以上で終了させていただきたいと思っております。 それでは、その他について事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>(事務局より次回開催日及び市長との意見交換会の概要について説明)</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。 委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。 本日はこれもちまして審議会を終了させていただきます。 お疲れ様でした。</p>
披田委員	<p>最後をお願いします。</p>

市長との意見交換会について、1, 2ヶ所は出たいと思っておりますが、13ヶ所全ては聞けないので、市民のどんな意見が出たのかというところについて、日程等大変かと思っておりますが、要旨だけでも見られるようにお願いします。

令和 4年 月 日

会 長

議事録署名人

議事録署名人